

令和元年度 COC+事業 実践力養成型（寺子屋式）インターンシップ  
学生向け振り返り会 実施報告

(1) 主旨・目的

インターン生を対象に、インターンシップを通して得られた学びや気づき、参加前後の職業観などの変化について振り返り、これをもとに今後の学生生活の課題を展望するための「振り返り会」を実施した。

なお、本会は、昨年度に引き続き、平成 28 年度から平成 30 年度までのインターンシップ修了生が企画・運営を行った。

(2) 日時

令和 2 年 2 月 8 日（土）

13：30～14：30 PROG 解説会

14：45～17：00 学生向け振り返り会

(3) 場所

徳島大学常三島キャンパス 地域創生・国際交流会館 3 階 共用室 301

(4) 参加者

インターンシップ生 28 名

インターンシップ修了生 6 名

(5) アンケート結果

①参加した感想

- ・ISP の始まりから終わりまで、そして、どのような道をたどってきたのか、振り返ることができた。そして、何より、自分にとって、今回の ISP はどのようなものになったか、反省も含めて成果を言語化するとともに、明確に捉えることができた。
- ・他のインターンに行った人の意見などを聞いてみて同じような苦勞をしているところが多く、今回のインターンシップで得た知識や経験は社会人として必要となるスキルであると体感できた。
- ・これまでのインターンシップでの経験を知恵と教訓に集約することができ、今後、活動していくうえでの参考になった。今後の活動に活かしていきたい。
- ・振り返りの一つの仕方がわかったような気がする。いつ何をして、それはなぜしたのか、しなかったのか、その選択をしたのはどうしてか考えることができた。もう一度、自分でも振り返りをしようと思った。
- ・自分でここまで深く反省することはしないので、参加して良かった。
- ・自分の伸ばすべき強みがわかり、「インターンシップをやった」だけに留まらず、次への指針を明確にできた。

②インターンシップの期間は自分にとって何だったか

- ・社会人として必要なことや、今の自分に足りていないものを知る機会になった。自分が頑張れば何とかなる勉強と違い、自分の力だけでは解決することができないことや、予想していなかったことが起こることがあるのが社会人として働くということだとわかった。
- ・自分が課題に直面したときに、どんな行動をするのか、どんな行動をするとうまくいって、どんな行動をするとうまくいかないのかを知るきっかけになった。
- ・いつもと違う考え方をした。責任・目標を持って行動した。
- ・社会人になるために何が必要か教えてくれた。大学生活では味わえない実践的な経験ができた。
- ・いろいろな経験と体験を積み重ねることができた。

自分の強みやチームの中での役割を実感できた。社会人の考え方を学び、実践できた。

・自分にとっては自分がどういう人間であるか個性を知ることができる機会であったように思う。日常生活においても考え方の基準を増やせるようになったと思う。

・わからないことに飛び込んで、わからないことに対する恐怖やうまくいかないことに対するストレスにもまれながら、それらから逃げずやりとげる、自分を更に磨くための修行だった。

・物事の考え方を学べ、実践できる時間だった。ミーティングがうまく進まなかったり、何をすれば良いのかわからなくなったりしたときに、答えを教えてもらうだけでなく、思考のプロセスを教えて頂けた。それを意識してPJに取り組むことで教えて頂いたことへの理解度を深めることができた。

### ③インターンシップの経験を今後の学生生活にどのように活かしていくか

・ISPを通して見つかった弱みをどのように克服するのか考える。また、強みをどうスキルアップするか考え実行する。

・自分の行動を定期的に振り返り、可視化する。

・行き詰ったときに、やりこんでいくと楽しい、など、発想の転換をする。

・今後のゼミの研究活動において、目的やゴールを明確に持った上で、計画的かつ柔軟に進めていく。

・自分には、何をやるにしても自信がなかった（自分の意見ややろうとしていること）。でも、チームメンバーとのミーティングの時やプロジェクトを行っていく上で自分と他人の考えていることは違って当たり前ということが学べた。だから、大学生活は自分のやりたいことを、自信をもってやっていく生活にしていきたい。

・ISPに参加したことで出会うことができた人々と関わり、自分の成長や地域への貢献を進めていく

・ただ動くだけでなく、何事にも目的意識と目標を持ち、今回の振り返りで見出した自分の改善点である協働性を伸ばすため、自分以外の人の視点に立って、考えていること、その前提として持っていることも意識しながら活動する。総じて楽しむ。

(6) 当日使用したスライド (一部抜粋)

① 業績を評価する-V <軌跡をたどる>

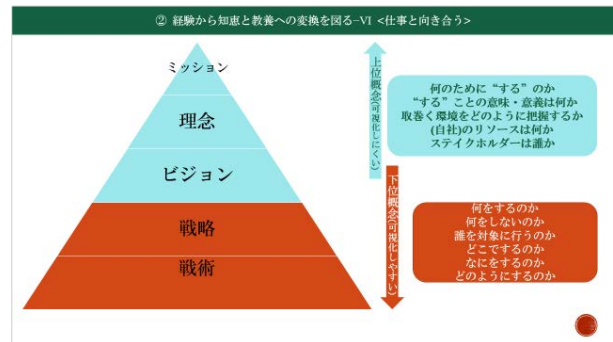
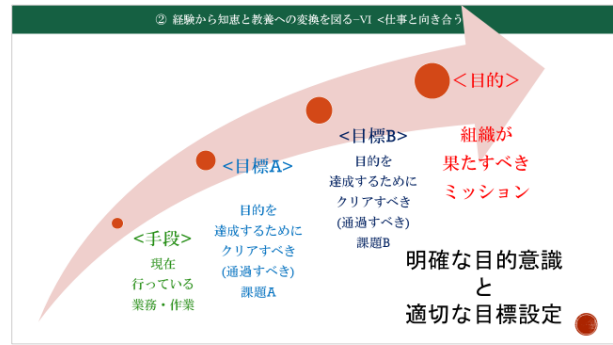
### 成果に至るまでのプロセスを振り返る

ワーク①, ② 3分

- 1) プロセスを可視化する
- 2) 加速/減速・停滞のポイントは?
- 3) そのときの自分またはメンバーの取った思考や行動に至る選択・判断の基準は?

## R-1 実践力養成型インターンシップ 学生振り返り会

2022年度 徳島大学COE推進プロジェクト



① 業績を評価する-IV <実績評価をする>

### <実績評価>

- 1) 成果目標は達成できたか
- 2) 企業に何をもたらすことができたか

達成率 ○ / 100 %

② 経験から知恵と教養への変換を図る-VI <知識から知恵・教訓へ>

半年余りの時間をかけて得た  
 “知識”だけでは  
 補うことのできない

“経験”を

これからの未来のために役立つ  
 “知恵”と“教訓”に変換する

② 経験から知恵と教養への変換を図る-IV <仕事と向き合う-1>

インターン期間中  
 与えられた業務に“正しく”向き合っていましたか?

なぜ(向き合えたときは)向き合えたのか?  
 なぜ(向き合えなかったときは)向き合えなかったのか?

② 経験から知恵と教養への変換を図る-XV <総括>

①  
 この数ヶ月のインターン期間は  
 自分自身にとって  
 何であったのかを総括する

②  
 この数ヶ月のインターン期間を  
 これからの学生生活に  
 どのように活かしていくのかを考察する

② 経験から知恵と教養への変換を図る-III <社会人と学生-3>

学生	テーマ	社会人
学業(研究含む)	本業	仕事
勉学	本業の目的	貢献(組織・顧客・地域など)
自分で努力	本業の達成方法	周囲と協力・組織で協力
自己責任	責任	組織責任
アルバイトor奨学金	収入源	本業
ある(学問上の正解)	正解	ない(最適解は存在する)
試験・成績	評価	成果・周囲及び顧客の評価or印象
同級生・先輩・後輩	対人関係	様々な(多様な)年代・職業・国籍
(例)学業>友人>趣味>副業	価値観	(例)仕事=家族>趣味=友人
卒業(修了)	ゴール	夢や理想の実現
自由と責任	ー	義務と権利

② 経験から知恵と教養への変換を図る- <>

<情報共有>

今日、この場にいる  
 インターン生  
 全員の共有知に変える

(7) 振り返り会の様子



リアセック横内氏による PROG 解説会の様子